

プロコンガードHP 施工要領書

(平成 29.10.10 改訂版)

一般社団法人 コンクリートメンテナンス協会

施工前の注意事項（下地処理）

コンクリート下地の状態は、プロコンガードHPの塗布効果や接着性に直接影響を及ぼしますので、次の点に注意して施工を行なってください。

1. 新設構造物に塗布する際には、下地の汚れやエフロレッセンスがある場合は、ケレンなどで除去して下さい。下地に汚れやエフロレッセンスなど付着している場合にプロコンガードHPを塗布すると、付着力が低下し、塗膜の剥離の原因となります。
2. 既設構造物に塗布する際には、サンダーケレン(推奨)や高圧洗浄を行ってください。特に脆弱部、汚れなどは十分に除去してください。
3. 塗布面にジャンカ(豆板)や欠けなどがある場合、ポリマーセメント系断面修復材により、断面修復工を行ってください。また、エポキシ系断面修復材・パテ等を使用した場合は、プロコンガードHPの付着性や浸透性を阻害しますので、使用は避けてください(不陸調整工も同様です)。
4. 0.2mm程度までのひび割れに対してはプロコンガードHPの塗布で充填されますが、それ以上の幅のクラックに対しては、所定のひび割れ注入工を実施した後に、プロコンガードHPを塗布してください。ひび割れ注入工はセメント系注入材を推奨しています(1mm程度までのクラックに対しては、エポキシ系注入剤でも可能)。
5. 躯体表面のセメントモルタル分が経年劣化により消失し、粗骨材が露出している場合や、巣穴がある場合には、状況に応じてポリマーセメント系薄塗り補修材により下地調整を行ってください。下地調整工を実施する場合は、必ず金鏝にて仕上げを行ってください。下地施工の仕上がりは、プロコンガードHP塗布後の最終的な仕上がり表面に反映されます。
6. プロコンガードHPは、水性材料のため、含水率などの下地の水分管理(水分率)は特に設定していません。ただし、早期の塗膜形成のため、表面が乾燥していると視認できる状況のもとで使用してください(通常 表面水分含水率 8%以下)。下地が濡れている場合は、ブロアーなどで強制乾燥させるなどの措置を行ってください。

プロコンガードHP 工程例

- **標準塗布量**（ローラー・刷毛・吹付）

0.25kg/m²～0.3 kg/m²

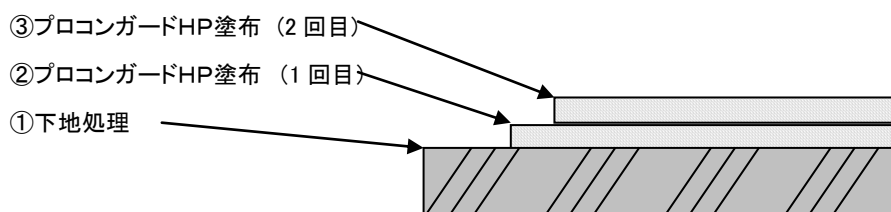
- **液体色**

乳白色（硬化後 半透明塗膜）

- **施工方法**

- ◎ **ローラー・刷毛による施工の場合**（通常 2 回塗り）

- ・ローラーで塗布する場合は、幅 15 cm 以下のローラーを使用してください。
- ・塗布面に対し、プロコンガードHPを押さえつけるように塗布してください。
（コンクリート床面、地覆や高欄の天端面には、特に力を入れながら塗布してください。）
- ・材料ロス は 5% 程度です。



- ◎ **吹付施工の場合**

- ・規定量の吹付けを行ってください。
- ・塗布面に対する吹付距離は 20 cm～30 cm 程度としてください。
- ・天候等の諸条件により吹付材料ロスが 20% 程度生じる恐れがあります。

◎ 注意事項（必ずお読みください）

- ・ 製品は、室内や日陰部（20～25℃程度の常温環境下）にて保管してください。
- ・ 使用前には必ず攪拌機を用いて十分に材料を攪拌してから使用してください。
- ・ 2回塗布で、標準塗布量の0.25kg/m²となります。ただし、新設構造物の場合、塗料の吸込が少ない場合もありますので、標準塗布量を満足できるように塗布回数を増やしてください。
- ・ 塗布する際は、液体に粘性があるため、たまりなど作らないように十分にローラー刷毛等にて伸ばして下さい。たまりの状態で放置しておくと乾燥後に乳白色の固まりとして残りますので注意してください。
- ・ コンクリート表面に気泡がある場合は、プロコンガードHPを刷毛などで十分に塗りこむか、あらかじめモルタルで気泡部分を補修した後に塗布してください。
- ・ 1回目の塗布後、塗膜が完全に乾燥したのを確認してから、2回目の工程に進んでください。乾燥時間は夏季で約1時間、冬季で約2時間程度です（昼間施工、湿度・夏季60% 冬季40%程度の場合）。また日陰や隅角部の乾燥が遅い部分はブロアー、送風機、ジェットヒーターなどを用いて乾燥を促進してください。
- ・ 気温が5℃以下や雨天時、湿度が非常に高い場合（90%以上）の施工は避けてください。塗膜の乾燥が十分でないと、雨水や結露の接触により塗膜が白華したり、材料ダレを起こす場合があります。
- ・ 塗膜乾燥前に水をかけたり、触ったりしないように注意してください。
- ・ 一度に厚塗りをしないでください。亀裂が発生する恐れがあります。
- ・ 開封後の材料は品質が低下してくるため、早期に使い切るようにしてください。塗膜形成後に本来の性能を十分発揮できない恐れがあります。開封後は缶を密封し1ヶ月以内にご使用ください。
- ・ 一液型のため、可使時間はありません。ただし、液体を長時間外気中に放置すると、液体表面に薄い皮膜が形成される場合がありますので、密封するなどして早期に使用するよう注意してください。
- ・ 塗膜・含浸複合タイプの薄膜塗料のため、膜厚計での計測ができません。出来型管理は塗布量で行ってください。
- ・ 塗膜形成後、塗膜に傷をつけてしまった場合は、プロコンガードHPでタッチアップをしてください。